

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		いちばん星		公表日 令和7年3月25日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・広すぎて死角も多いので、職員同士の声かけ、確認を徹底している。 ・場面に応じて安全点呼している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員は必要人員以上の配置ができている。 ・職員体制に応じて、活動等の内容を工夫し、安全面に配慮している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・玄関前に段差はあるが、声かけ等の工夫で事故やケガの起きないように配慮している。 ・危険なことは文字や絵で解りやすく伝えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動内容や、子どもの特性に応じて間取り(家具等の配置)を検討し、変更をかけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・更衣室、事務室、スタッフルーム等、必要に応じて空間を整理し、子どもたちが個室として使用できる環境を整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・常勤、非常勤関係なく、複数の職員で意見を出し合い、改善を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・意見箱や面談の機会を設けている。 ・普段から意見交換がしやすい環境にある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・職員のスキルに応じた研修に参加できるようになっている。 ・定期的に動画による研修も行っている。	
適切か	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・利用者と保護者のニーズの把握を行い、生活に寄り添った支援計画、支援の実行ができている。	・利用者の成長過程で生じる本人と保護者とのニーズの違いをどう支援に反映させていくかが今後の課題となる場面が増えてきている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・モニタリング、個別支援会議等を通し、職員全体で課題の把握、取り組みを考慮している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			・利用している事業所によって個人のアセスメントが違うので、自立支援協議会の部会等を通して、共通のアセスメントをとる方法を模索していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・マンネリ化しないように気をつけている。 ・同じことをするのにも、違う意味を持たせて取り組めるように工夫している。 ・刺激に過敏な利用者には固定した活動を提供することが望ましいときもある。どう見分けていくかが課題だと感じる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・集団での活動、個別の課題活動とメリハリをつけて取り組んでいる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・小さな気づき等、早期発見、早期対応に努めている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・3～4か月に1回、モニタリングを行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・各学校とマチコミを通して情報共有ができています。 ・放デイ部会で事業所間の連携を強化している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・学校や他事業所とは連携がとれているが、児童発達支援センターとの連携はなかなか難しい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・必要性を感じない。ペアレントトレーニング等は行政、教育機関が行うべき事柄だと考えている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・運営規定や利用者負担額は契約の時、報酬改定時には説明している。 ・支援プログラムは担当者会議で説明している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・保護者の意見に偏りがちな傾向にあるので、利用者の思いも確認していく必要を感じる。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・事業所参観日を設け、他事業所や学校の先生、相談員等に生活の様子を見てもらう機会は設けている。	・災害時の対応等、地域住民とどう関わりを持っていくかは今後の課題だと思う。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・定期的にマニュアルを見直し、年に数回の訓練をしている。		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・避難訓練等の災害訓練は行っている。	・BCPの周知はできているが、有事の際に速やかに動けるように訓練が必要。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・年に2回、社外研修に参加 ・年2回の社内研修の実施	・社内研修ではグループワーク、ロールプレイング等で研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・虐待防止研修と同様に行っている。	・虐待防止研修と合わせて取り組んでいる。		